

めぐみイエス・キリスト教会

2018年6月24日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第411号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈祷会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年6月24日(第四主日礼拝)
午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈り】
【賛美Ⅰ】 新聖歌325「歌いつつ歩まん」 p. 515
【交読文】 No.2 詩篇第8篇 p. 879
【賛美Ⅱ】 新聖歌170「マジェステイ」 p. 356
【使徒信条】
【主の祈り】
【先週説教】
【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.8 「神様の愛の言葉」
【聖書朗読】 ヨハネの福音書14章22節～26節 (p. 192下段)
【祈 禱】
【説 教】 《私の言葉》 鈴木 竜実 牧師
【聖 餐 式】
【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
【平和祈り】
【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
【祝祷後奏】

【聖書箇所】※ヨハネの福音書14章22節～26節 (p.192下段右側)

14:22 イスカリオテでないユダがイエスに言った。「主よ。あなたは、私たちにはご自分を現わそうとしながら、世には現わそうとなさらないのは、どういうわけですか。」

14:23 イエスは彼に答えられた。「だれでも私を愛する人は、私の言

葉を守ります。そうすれば、私の父はその人を愛し、私たちはその人のところに来て、その人と共に住みます。

14:24 私を愛さない人は私の言葉を守りません。あなたがたが聞いている言葉は、私のものではなく、私を遣わした父の言葉なのです。

14:25 このことを私は、あなたがたと一緒にいる間に、あなたがたに話しました。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、私があなただに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

●ポイント1 「言葉」とは？

※創世記1章1節～3節 「創造の初めの言葉」(旧約p.1上段)

1:1 初めに、神が天と地を創造した。

1:2 地は形がなく、何もなかった。やみが大いなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた。

1:3 そのとき、神が「光よ。あれ。」と仰せられた。すると光ができた。

※ヨハネの福音書1章1節～3節「初めの言葉」(新約p.190上段)

1:1 初めに、言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。

1:2 この方は、初めに神とともにおられた。

1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

※第一ヨハネ1章1節～3節 「いのちの言葉」(新約p.426上段)

1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見ただもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちの言葉について、

1:2 このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。

1:3 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

●ポイント2 「あなたがたが聞いている言葉」とは？

※ヨハネの福音書12章49節～50節「言われた通り」(新約p.188下段)

12:49 「私は、自分から話したのではありません。私を遣わした父ご自身が、私が何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。

12:50 私は、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。それゆえ、私が話していることは、父が私に言われたとおりを、そのままに話しているのです。」

※申命記8章3節「モーセへの神の言葉」 (旧約p.291下段)

8:3 それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった。

●ポイント3 「助け主すなわち聖霊がして下さること」とは？

※ヨハネの福音書6章63節「霊であり命の言葉」 (新約p.171下段)

6:63 「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。私があなたがたに話した言葉は、霊であり、またいのちです。」

※第二テモテ3章16節 「神の靈感による」 (新約p.382上段)

3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

※ローマ人への手紙10章17節「聞くことから始まる」(新約p.280下段)

10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみ言葉によるのです。

◎先週のメッセージの概要【主が共に住んで下さる人】

《十二使徒のひとりヤコブの子ユダ、別名タダイが、イエス様に質問しました。「主よ。あなたは、世には現わそうとなさらないのは、どういうわけですか。」

この質問は、イエス様がその前に言われたことに対するものです。しかし、イエス様の関心事と、使徒たちの関心事とは、かなりずれているのです。

それゆえイエス様はもう一度、「誰でも私を愛する人は、私の言葉を守ります。そうすれば、私たちはその人の所に来て、その人と共に住みます。」と言われたのです。ここで「言葉」と訳されている原語は「戒め」と同じ原語です。

それでは、イエス様が言われた「戒め」とは、何なのでしょう。それは、「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」、と言われたことなのです。クリスチャン同志、互いに愛し合いなさい、と言うことです。そしてそれは、教会の中においても、また様々な教派の教会であっても、互いに認め合い愛しなさいと言う意味でもあるのです。

もちろんこれはとても大きな課題であるわけで、まず私たちは身近な所から始める必要があります。それには、どうしたら良いのでしょうか。

私たちが神様を愛したのではなく、神様が私たちを愛し、私たちの罪の為に、なだめの供え物としての御子を遣わされたのです。すなわち十字架です。十字架によって罪が赦され、そして永遠のいのちが与えられたのです。

愛の手紙(第 I ヨハネ)を書き記したヨハネは、自分の事を「主の愛された弟子」と呼んでいます。結論から言いますと、愛された者だけが、愛することが出来るのです。イエス様は、まことの人であると同時に、創造主なる神様です。つまりヨハネは、神様と人との両方に愛されたのです。だから愛を知っており、愛することが出来るのです。もちろん神様の愛は、十字架によって完成されています。しかし私たちは、イエス様の愛を個人的に受ける必要があります。なぜなら、あなたも私も、「主の愛された弟子」なのですから。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、7月1日(日)午前10時から行ないます。斉藤順子宣教師が、ご用されます。また聖書研究・祈祷会は6月27日(水)午後6時15分です。
2. 鈴木師は、6月20日(月)TPC昼礼拝奏楽(説教・植草榮一先生)、そして6月29日(金)～30日(土)に、ますみさんと日本信徒前進宣教大会に出席します。